

数値目標

項目	直近値	目標値 (2029(令和11)年度)
妊産婦期、乳幼児期		
3歳児でう蝕のない者の割合の増加	88.8%	95%
学齢・青年期		
12歳児の1人平均う蝕等数の減少	0.9本	0.6本
成人期		
40歳で歯周炎を有する者の割合の減少	42.4%	30%
40歳で喪失歯がない者の割合の増加	87.6%	95%
60歳で歯周炎を有する者の割合の減少	48.3%	35%
60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	89.9%	95%
歯周疾患検診を実施している市町村数の割合の増加	76.7%	100%
過去1年間に歯科受診(検診を含む)した者の割合の増加(20歳~)	59.0%	70%
高齢期		
65歳以上でかみにくいと自覚症状がある者の割合の減少	5.0%	4%
80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	45.5%	70%
障がい者(児)、要介護者		
障がい者(児)が利用する施設での過去1年間の歯科健診実施率の増加	78.3%	90%
要介護高齢者が利用する施設での過去1年間の歯科健診実施率の増加	46.8%	50%
在宅歯科医療を行っている歯科診療所 ^(※1) の割合の増加	35.0%	50%

(※1) 医療保険による訪問診療(居宅、病院・診療所、介護施設等)、訪問歯科衛生指導のいずれかの実績がある歯科診療所

歯と口腔の健康のために、県民の皆さんに取り組んでいただきたいこと

「かかりつけ歯科医」で定期的に歯と口腔の健康状態をチェックしてもらいましょう。

○う蝕予防のために・・・

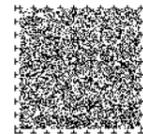
- ・ 食事やおやつのとりに方に注意し、バランスのとれた食事をよく噛んで食べましょう。
- ・ 乳幼児期に、食後の歯みがき習慣を身に付けましょう。
- ・ フッ化物の利用(歯みがき剤、ブクブクうがい、塗布)など、効果的なう蝕予防を行いましょ。

○歯周病の予防のために・・・

- ・ 歯と歯ぐきの境目の歯垢(プラーク)を取り除く効果的な歯みがき方法を身に付けましょう。
- ・ デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯の間のプラークを取り除きましょう。

○歯の喪失を予防し、口の機能を維持するために・・・

- ・ 舌や頬、唇など、口の機能に関わる筋肉を鍛えましょう。



Uni-Voice

令和6年3月
福岡県保健医療介護部健康増進課
〒812-8577
福岡県福岡市博多区東公園7番7号
TEL 092-643-3270
FAX 092-643-3271
kenko@pref.fukuoka.lg.jp



福岡県

福岡県行政資料	
分類記号	所属コード
GA	4400200
登録年度	登録番号
05	0003



福岡県 歯科口腔保健推進計画 (第3次)

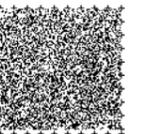
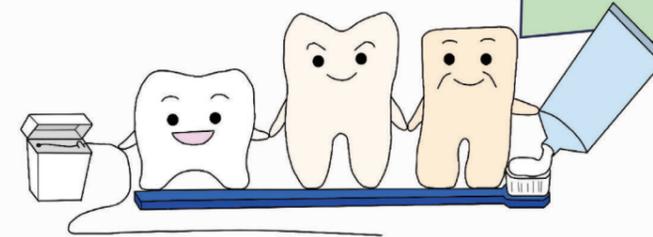
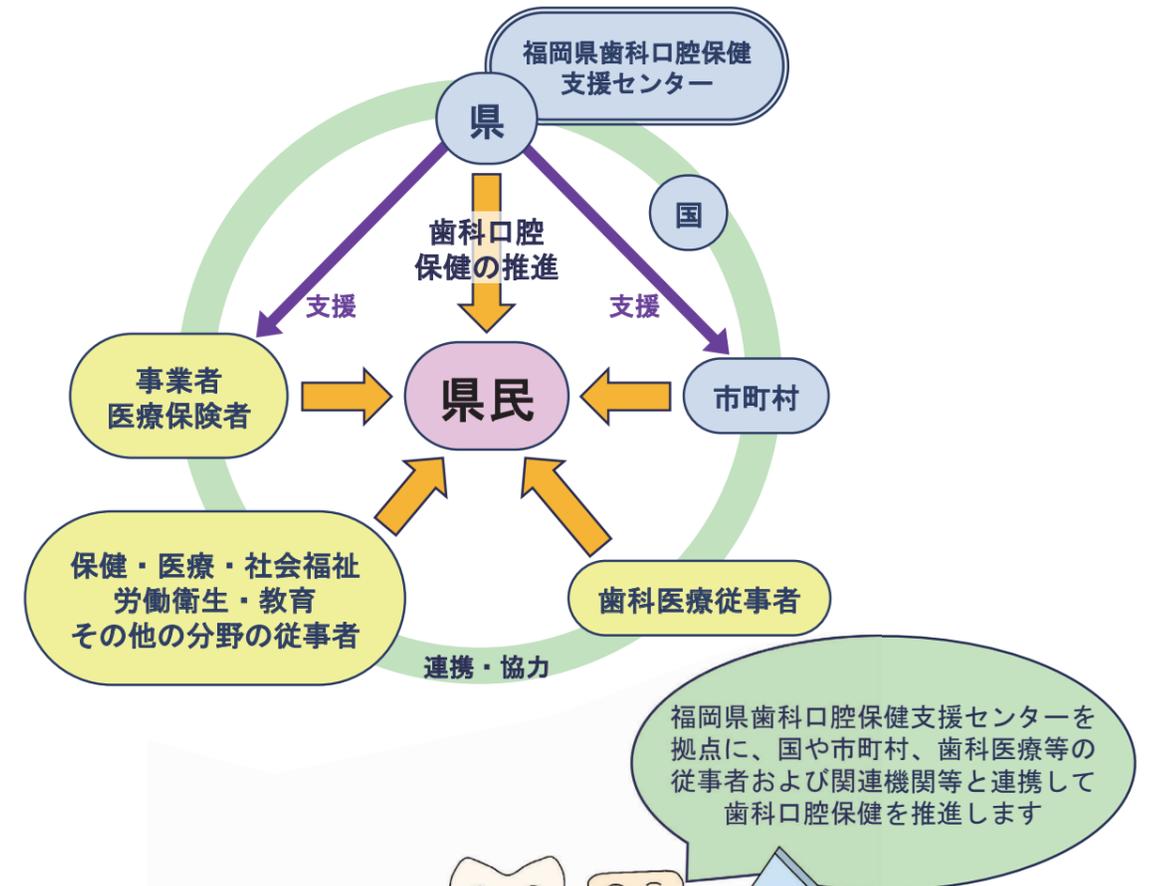
概要版

2024年度 (令和6年度) ⇒ 2029年度 (令和11年度)

策定の趣旨

福岡県では、生涯にわたって「自分の歯でおいしく食べることができ、楽しく会話ができる」健やかで心豊かな生活を送ることができる社会を目指して、「福岡県歯科口腔保健の推進に関する条例」を制定しています。

この条例に基づいて、県民にとって健康で質の高い生活を営む基盤となる歯科口腔保健の実現に向けて、現状や課題をふまえて目標を定め、取り組むべき施策を明らかにするため「福岡県歯科口腔保健推進計画(第3次)」を策定しました。



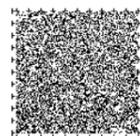
Uni-Voice

1 ライフステージに応じた歯科口腔保健施策の推進

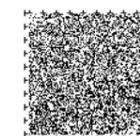
	現状・課題	取組
妊産婦期、乳幼児期 (～5歳)	<ul style="list-style-type: none"> ●つわりや不規則な食事によりう蝕や歯周病を起こしやすい時期 ●乳歯が生え始め、食習慣が確立する大事な時期 ●妊産婦および乳幼児の歯科健診受診率が全国より低い ●う蝕のあるこどもの割合が全国より高い ●かみ合わせに異常のあるこどもの割合が増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ●両親学級や妊産婦歯科健診を通じて歯科健診の重要性についての理解促進 ●う蝕予防のため食習慣、歯みがき、フッ化物応用等の普及啓発 ●口腔機能獲得のための普及啓発
学齢・青年期 (6～17歳)	<ul style="list-style-type: none"> ●永久歯が生えただけで未熟なため、う蝕になりやすい時期 ●口腔機能の発育に重要な時期 ●う蝕のあるこどもの割合が全国より高い ●年齢が上がるにつれて、歯肉に炎症のあるこどもの割合が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●フッ化物洗口の実施拡大 ●口腔清掃法の習得のため、学校における歯科保健指導を推進 ●う蝕や歯周病予防とともに、口腔機能発育の重要性を普及啓発
成人期 (18～64歳)	<ul style="list-style-type: none"> ●歯周病や二次う蝕(過去に治療を行った歯が再びう蝕になること)が増加する時期 ●歯科健診や歯科保健指導を受ける機会が他の年代と比べて少ない ●歯周疾患検診を実施している市町村の割合が全国より低い 	<ul style="list-style-type: none"> ●「かかりつけ歯科医」を持つことの重要性について啓発 ●歯周病と全身の健康との関連について啓発 ●市町村や事業所等での定期的な歯科健診の実施促進
高齢期 (65歳～)	<ul style="list-style-type: none"> ●歯根面にう蝕ができやすい時期 ●歯の喪失が進み、口腔機能が低下しやすい時期 ●80歳で20以上の自分の歯を有する者の割合が全国より低い 	<ul style="list-style-type: none"> ●フッ化物応用やセルフケアに係る普及啓発 ●生活の質(QOL)に悪影響を及ぼすオーラルフレイルの周知 ●口腔機能低下防止のため舌や顔面周囲の筋力の保持増進の啓発
障がい者(児)、要介護者	<ul style="list-style-type: none"> ●セルフケアが困難なため、う蝕や歯周病のリスクが高い ●歯科治療が難しい場合があるため、専門的な知識および技術を持った歯科医療従事者の確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族や施設関係者に対し、効果的な口腔ケアの手法や定期健診の重要性について普及啓発 ●在宅歯科医療に携わる歯科専門職の育成、確保

2 歯と口腔の健康づくりを支える社会環境整備

	現状・課題	取組
歯科口腔保健の提供体制	<ul style="list-style-type: none"> ●無歯科医地区では歯科保健医療を受ける機会が少なく、良好な口腔衛生の維持が困難 ●災害発生時、被災者の口腔健康管理や歯科保健指導が重要 ●歯科受診の際に発見可能な疾患(低ホスファターゼ症等)があり、医科歯科連携が重要 ●口腔内の細菌は、呼吸器等に慢性炎症を引き起こす原因 	<ul style="list-style-type: none"> ●市町村や関係団体と連携し、歯科健診や歯科保健指導を推進 ●市町村や関係団体と連携し、避難所等での口腔健康管理を推進 ●多職種連携のため、情報共有システム整備の支援 ●感染症の重症化予防のため、平時からセルフケアの手法等を啓発
正しい知識の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●歯と口腔の健康づくりや歯科疾患の予防方法等について普及啓発が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡県歯科口腔保健啓発週間」等、様々な機会をとらえて歯と口腔の健康について啓発
人材の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ●歯科保健医療のニーズが多様化 	<ul style="list-style-type: none"> ●歯科専門職や行政等の職員に対する研修の実施
調査および研究	<ul style="list-style-type: none"> ●県は歯科疾患や歯科口腔保健に係る調査、解析を行い、地域にあわせた事業の展開が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●県は関係団体と協力し、継続的な情報収集と正確な解析を行い、効果的な事業を実施



Uni-Voice



Uni-Voice